感覚統合理論による要所の景観表現

岩手大学 学生員 村上亜矢子 岩手大学 正 員 安藤昭 岩手大学 正 員 赤谷隆一 岩手大学 正 員 南正昭

1. はじめに

地区景観と要所の景観にマトリョーシカモデルを仮説 立て、感覚統合理論による体系化を試みる。

2. 研究の目的

現在新都心として開発している盛岡駅西口地区に位置 する盛岡駅西口広場の景観デザインを、感覚統合理論を 適用して行う。

3. マトリョーシカモデル

本研究では、「都市景観の一部である地区景観や地区 景観の一部である要所の景観も都市景観と同じ景観モデ ルを適用できる」と仮定し、これをマトリョーシカモデ ルと呼ぶものとする。

このマトリョーシカモデルの特色は、

- 「 地区景観・要所の景観は都市景観の一部をなす入 れ子である」
- 「 都市景観・地区景観・要所の景観のいずれも同じ モデルで解釈とデザインができる」

としている点である。

マトリョーシカモデルに当てはめた解釈モデルを図-1 に示す。

4. ケーススタディ

要所の景観デザイン

景観解釈モデルと景観デザインモデルを、実際に景観 デザインを行うことによって説明していく(図-2)。ケー ススタディの対象地区として、現在開発が行われている 雫石川盛岡駅西口地区を取り上げる。

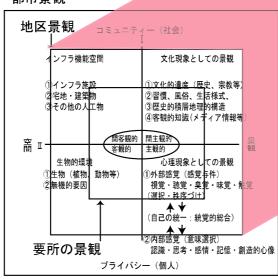
はじめに雫石川盛岡駅西口地区を景観解釈モデルに 沿って解釈し、地区の現状・問題点を把握する。そして 地区の全体像が把握できたら次は景観デザインモデルに 沿って地区の風土イメージを抽出し、抽出されたイメー ジの内容を整理しながら地区全体の構造を考えていく。 地区のマクロ構造の段階をデザインし終えたら、地区を いくつかの要所に分けそれぞれの使用目的にあったデザ インテーマを要所ごとに決め、要所の景観デザインを 行っていく。

(1)雫石川盛岡駅西口広場の要所の景観デザイン

景観解釈モデルによって得ることができたこの地区の 問題点を以下に3つ挙げる。



都市景観



地区景観 コミュニティー (社会) イン<u>フラ機能</u>空間 文化現象としての景観)文化的遺産 (歴史、 3)歷史的積層地理的構 間主観的 主観的 客観的 生物的環境 <u>√</u> 心理現象としての: ・心理現象としての素報 ①外部密覚 (密覚与件) 視覚・聴覚・臭覚・頃覚・触覚 (選択・秩序づけ) ・(自己の統一: 結覚的担合) ①生物(植物、動物等) ②無機的要因 2内部感覚 (意味選択) 認識・思考・感情・記憶・創造的心傷 要所の景観 プライバシー(個人 要所の景観 (社会) 文化現象としての景観)文化的遺産(歴史、宗教等))習慣、風俗、生活様式、)歴史的報度地理的構造)客観的知環(メディア情報等) 間主規約 主要的 器 1 生物的環境 ①生物(植物、動物等) ②無線的専用 日歩としての書類 □ D垣根駅としての景報
 |外部感覚(感覚与件)
 |被寛・聴覚・臭覚・味覚・私賞(選択・秩序づけ)

★ ▼ (自己の被一:検覚的総合) ◆ ▼ を マ 2内部感覚 (意味選択) - 逐鉄・思考・恐情・記憶・創造 - (個人)

図 -1 マトリョーシカモデルをとりいれた景観解釈モデル

キーワード:感覚統合理論, マトリョーシカモデル

連絡先:〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3番5号 岩手大学大学院工学研究科建設環境工学専攻都市計画学研究室 TEL: 019-621-6453

- (1)地盤が弱くさらに堤内地の方が地盤が低い
- (2)コミュニティ空間やプライバシー空間を考慮した空 間が少ない
- (3)歴史・民族・産業・自然などに関する資料を展示して いる場所が少ない

そしてこの問題点から4つの課題を挙げた。

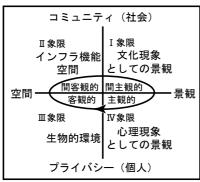
- (1)地盤を強化し,災害に強いまちづくり.つまりスー パー堤防を考慮したまちづくり.
- (2)盛岡らしさ,つまり山並みと河川風景を取り入れた 新都心の形成.
- (3)人と人がふれあえる,つまり人と人との絆を大切に するまちづくり.
- (4)生物の多様性,つまりエコロジカルミュージアムか らのまちづくり.

様々な問題点を含むありのままの地区の現状。



)解釈モデルの4つの視角について情報収集。

地区景観解釈モデル



現状の問題点を浮き彫りにする。



デザインの目指すべき方向性、理念目標)を設定。



デザインモデルの各段階で必要な情報の収集を行い 要所のデザインテーマを決定し、要所のデザインを

地区景観デザインモデル

脳半球モデノ 都市景観の カテゴリー	左脳 『理性的』	右脳 『感性的』
マクロ構造 (地区景観)	ii: 構造論的段階 (生理的レベル) 目標:生活と生存 課題:都市のフィジカル パターンと象徴化 変所のデザインテー	i: 象徴論的段階 (生態学的レベル) 目標:人と自然との共生 課題:風土イメージの抽出
ミクロ構造 (要所の景観)	iii:機能論的段階 (社会的レベル) 目標:個性豊かな地域社会の形成 課題:コミュニティー・ アクティヴィティプラン	iv: 実体論的段階 (自己実現のレベル) 目標:芸術作品としての都市 課題:芸術文化の創造



新たな実体)新たな要所の景観の創出。

図-2 景観デザインの手順

景観解釈モデルから得ることができた地区の課題か ら、この地区のデザインの目指すべき理念を4つ挙げる。 身近に感じる水辺空間と山並みの眺望を通して 地球 環境の保全を考える.

人・情報・技術が集約し,中枢地区としての役割を果 たす.

「住(生活)」「職(産業)」「学(教育)」「遊(商、 文化)」が融合した居心地良い地区の形成.

ゆとりが生まれる環境の創造.

そしてこの理念を基調に盛岡駅西口広場のデザイン テーマ、「自然との共生,タウンミュージアム」を決定す



盛岡駅西口広場の鳥瞰図



人工地盤から河川敷の眺め 図



図 5 盛岡駅西口広場の位置

参考文献

- 1)安藤昭. 赤谷隆一: 感覚統合理論による都市景観設 計の体系化, 土木学会論文集, No.653/ -48, pp.63-75, 2000
- 2) 水出佳奈, 安藤昭, : 感覚統合理論による都市景観設 計の体系化に関する研究(その),第3回観光まちづく リ学会研究発表会,3-1